

小児科・思春期科

● スタッフ（2022年10月1日現在）

診療科長 山中 岳
 医局長 呉 宗憲
 病棟医長 千代反田 雅子（14B病棟）、
 菅波 佑介（NICU）
 外来医長 森地 振一郎

医師数 常勤 34名
 非常勤 14名

● 診療科の特徴

当科は、神経・筋疾患、感染・免疫疾患、アレルギー疾患、消化器疾患、代謝・内分泌疾患、腎・泌尿器疾患、循環器疾患、遺伝性疾患、新生児疾患など小児科疾患全般に対して、各分野の専門医が最新の知見をもとに外来および病棟での診療を行っています。外来部門は、一般外来はもちろん疾患分野ごとの専門外来を設け、専門的な診療体制を構築しています。病棟部門では、外来では治療困難な疾患の精査・治療だけでなく、各種負荷試験や、鎮静下での内視鏡検査などを短期入院で実施するなど様々な患者ニーズに応えることができるよう、フレキシブルな入院対応を行っています。さらに、一般小児病棟とは別フロアにある新生児集中治療室では地域周産期医療センターとして近隣医療機関からの母体搬送や新生児搬送に対応しています。

● 診療体制と実績

1) 外来診療体制と実績

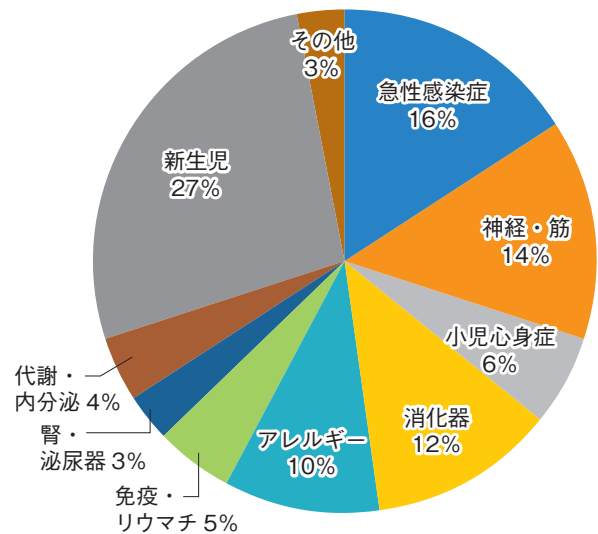
外来は本館3階にあり、午前・午後ともに予約外来・各種専門外来を7診体制で行っています。2022年4月1日～2023年3月31日の診療実績は、初来院患者数2,287名（病院医事課データ）でした。専門外来は、神経、心身症、アレルギー、免疫・リウマチ、腎・泌尿器、消化器、内分泌、代謝、循環器、呼吸器、発達フォローに加え、近年ニーズが高まっている小児頭痛外来を設立し、各分野の専門医による診療を行っています。より幅広い視点から子どもたちをサポートするため、専属心理士もおります。また、遺伝子診療センターとの連携により小児遺伝性疾患をチームで支えていく医療体制を構築しているほか、関連各科と連携しながらシームレスに対応するため、口唇口蓋裂センターや結節性硬化症チーム、神経線維腫症チーム、アレルギーセンターの小児患者さんの受入窓口として積極的に活動を行っています。夜間・休日は時間外外来やERで、小児救急患者や重症患者（三次対応可）の受け入れを行っています。

2) 入院診療体制と実績

当科の病棟は一般小児病棟（本館14階B病棟 40床）と地域周産期医療センター（本館7階 NICU 12床、GCU 18床）があり、一般小児病棟は3グループで各専門分野別に診療にあたっています。2022年4月1日～

2023年3月31日の小児科・思春期科における新規の入院患者数は1,561件でした。アレルギー疾患や内分泌疾患の負荷試験や、鎮静下における消化管内視鏡検査、喉頭・気管支内視鏡検査、MRI検査、脳波検査などの検査入院を積極的に行っており、その件数は近年増加傾向にあります。さらには、近赤外線分光法機器を併用した起立性調節障害の診断や、カプセル内視鏡による小腸および大腸の画像検査など先端医療を取り入れ診療を行っています。また、高齢出産に伴うハイリスク分娩の増加、早産、低出生体重児の出産数の増加により、周産期医療のニーズは年々増加しています。これに伴い近隣周産期施設からの依頼件数も増加しており、入院件数、診療実績ともに高い水準を維持しています。

2022年度小児科入院患者疾患内訳



2022年度小児科外来患者疾患内訳

